

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470201056
法人名	社会福祉法人 一燈園
事業所名	グループホーム新別府一燈園
訪問調査日	平成20年11月17日
評価確定日	平成20年12月18日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4470201056
法人名	社会福祉法人 一燈園
事業所名	グループホーム新別府一燈園
所在地	別府市大字鶴見字新別府3051番3号 (電話)0977-23-1818

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年11月17日	評価確定日	平成20年12月18日

【情報提供票より】 (平成20年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算	15.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 (無)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	550 円	おやつ	0 円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年10月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2			6 名
要介護3	2 名	要介護4			5 名
要介護5	1 名	要支援2			0 名
年齢	平均 84.2 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あべ消化器・内科クリニック 厚生連鶴見病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 グループホームはバス停から近い住宅地の中にあり3階建ての2階～3階で門扉の中には広い芝生のスペースや菜園が作られている。
- 2 地域で作られた野菜を購入し献立や味付けに工夫があり職員と利用者が毎回一緒に盛り付け等の準備や後片付けをしている。
- 3 日常的な外出は、毎朝の散歩から始まり一人ひとりに合ったサービスが行われている。
- 4 出入りにスタッフの写真と名前が書かれており、異動があっても戸惑いのない工夫をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善項目は、内部研修やケース会議で話し合い、いろいろと工夫や取り組みが見られるが、職員の異動があり全てがクリアできているとはいえない。評価の意義については、全職員が理解して自己評価を行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員と一緒に読み改善項目や、取り組みについて話し合い管理者がまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回、新別府自治会長、地域包括センター職員、利用者代表等の参加により定期的に開催され行事報告や、外部評価の結果説明をし、意見や要望を受けている。市にも運営推進会議の結果を報告している。討議内容はできることは直ぐ取り組みサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会を開催し、アンケートにより意見や苦情を聞き、職員間で検討し第三者委員により意見やアドバイスをもらって結果を運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会の賛助会員となり、地域行事や小学校の運動会に参加し、今年には老人会と合同の誕生会を行い交流を深めている。また、地域の方が作った野菜を購入したり、老人会よりサツマイモが届けられている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を目指した内容とするために理念の中に「地域住民の一員として生きていけるような支援を心がけます」との言葉を入れた内容に全職員で作りかえている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を業務開始の前に必ず読み、確認し、日々の支援の中に活かしたサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の賛助会員になり地域の行事や小学校の運動会に参加したり、今年は老人会と合同の誕生会をし交流を深めている。また、地域の方が作った野菜を購入したり老人会より毎年サツマイモが届けられている。		
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価票を読み評価の意義とねらいについて話し合い前回の改善項目は内部研修、ケース会議で取り組んでいるが、職員の異動により全ての改善には至っていない。	○	改善についての取り組みは行っているが、多くの職員が異動しており、徐々にでも評価結果や改善項目についての取り組みを行い、サービスの質の向上に活かしていくことが望まれる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、新別府自治会会長、地域包括支援センター職員、利用者家族代表2名、グループホーム管理者2名、在宅事業部長が出席し、施設からの報告や評価結果を説明し意見や要望を聴き改善に向けた取り組みに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の結果を報告したり、別府市グループホーム連絡協議会と連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、市職員による「認知症高齢者の人権」について、話しに来てもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ミニ新聞を発行し、利用者の様子や職員の異動等、写真入で送付し、金銭出納も報告している。また、面会時にケア記録を印刷して家族などに見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回開催し、アンケートをお願いしたり、意見や不満、苦情を聞くようにしている。苦情や意見は職員間で話し合い、内容によっては、福祉サービス向上委員会に報告し、第三者委員から意見やアドバイスをもらい、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は法人内での異動が多くあったが、利用者や家族には十分に説明を行い、残った職員が混乱のないケアに努めているため、ダメージは見当たらない。また、出入口には職員の写真と名前を貼り、訪問した家族が確認できるような工夫もしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画により、新人研修、ステップアップ研修、フォローアップ研修に参加し、パート職員も研修参加をしている。また、外部研修も積極的に参加し、ケース会議で結果の報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム大分県連絡会や別府市グループホーム連絡協議会に加入し定期的な会合や研修会を通じた意見交換会や施設見学を行いサービスの質の向上につなげるような取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にグループホームに馴染めるように、利用者や家族に施設見学をしてもらい、デイサービスから入居を希望する場合は、デイサービスと共同で楽しみ会を行っているため、顔馴染みとなっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除のときにモップを出してくれたり、シーツ交換の手伝いをするなど利用者ができることや、自分の力を発揮できる場面作りを行い、してもらったことへの感謝の言葉を伝え、お互いに支え合う関係作りはできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を日常の会話の中から把握し、ケアプランに取り入れている。困難な場合は家族の情報や生活歴を参考にし態度や表情からの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や、家族の意見、要望を聞き取り、カンファレンス時に意見を出し合い、利用者の希望に沿った利用者本位の介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1度はモニタリングをし、プランの見直しを行っている。状態変化がある場合は現状に即したプランの変更を行い、家族も確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じて、通院介助、外泊支援、施設への宿泊、演劇鑑賞、カラオケ同行、お盆のお墓参りの介助等、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には利用者や家族の同意を得て、グループホームの協力医に変更してもらっているが、希望に応じて昔からの、かかりつけ医を受診する人もいる。また、定期的に2ヶ月に1度、職員同伴で通院による受診をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方についての話し合いは行っているが、早期の話し合いは十分ではない。終末期対応指針は作成している。	○	ターミナルケアの取り組みは準備しているが医療処置の対応については、急変時に対応できるように協力医との話し合いが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には言葉かけや、態度など、マナーについては厳しく教育し職員間でも注意し合っている。また、個人情報の取り扱いには十分な指導や配慮はできている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが利用者のペースを大切に、できる限りその日の体調や生活習慣に合わせた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い、毎回7種類くらいの料理が並び職員も同じテーブルで楽しく和やかに食べている。また、盛り付け、後片付けも職員と利用者が一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や、ペースにあわせた入浴支援をしている。入浴拒否の人には、声かけをしたり、馴染みの職員との入浴から始め、今では一人で入浴ができています。また、入浴時間はできるだけ希望する時に入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	刺し子、活け花等、趣味活動を活かした楽しみごとの支援や、全利用者で楽しむ音楽療法で知っている歌での気晴らしの時間、また、季節の漬物(梅干漬け、ラッキョウ作り、粕漬け)等を利用者に習いながら一緒に作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝散歩をしているが、希望にそって食材の買い物や観劇・外食とそれぞれの希望に添った支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵を掛けることによる弊害は十分理解しているが同じ建物の1階にデイサービスがあり、正面の道路は交通量が多く安全確保のために、デイサービス利用時間帯は門扉を閉めている。早朝、短時間、開放してみたり工夫はしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練は、利用者も参加して年2回行い、地域住民にも声かけをしている。また、災害に備えての備蓄はできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、毎回記録し栄養のバランスについては管理栄養士により定期的にチェックされ、個別の栄養管理は職員により把握ができています。毎回豊富なメニューの食事を取っており、残食は少ない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の空間には、季節感のある写真を貼ったり、柿をならべていたりしている。畳のスペースも作っており、寒い日は炬燵で過ごし、3度の食事を作る匂いが漂いあたたかい雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の必要な家具、鏡台を持ち込み、仏壇を置いている人もあり本人の意向にそった居室作りである。家族の協力も得られている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム新別府一燈園
(ユニット名)	2階 なごみ
所在地 (県・市町村名)	別府市大字鶴見字新別府3051番地3
記入者名 (管理者)	小野 利津子
記入日	平成 19 年 10 月 14 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今回は老人会と合同誕生会を行い、バイキングを食させていただきました。今後も機会を作りたいと思っております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣には一人暮らしの方が多く、災害時、防災時には事業所を使用していただけるよう日頃より地域の方に話している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃より職員間で話し合いを行っているが、職員の異動が重なったため職員間の意識統一をまず行い、改善にすべき項目に取り組んでいきたい。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で外部評価の実施状況や結果の報告を行い、参加者よりご意見や質問等をいただきながら、さらに発展、向上できるように取り組んでいる。地域との連携も取れるようになり、自治会長さんだけでなく他の役員さんも運営推進二酸化していただけるようになった。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の職員による「認知症高齢者の人権」について話をいただきました。(1月)別府グループホーム協議会の研修に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後も機会を作り、市の職員と交流を持ちサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修を通じ学ぶ機会や話し合う機会はあるが、又今後も理解を深めていかねばならない。現在2名の方が成年後見制度を利用されている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や「高齢者虐待を考える」という本の事例を職員で読みながら勉強会を行い、虐待防止に関する理解や意識の徹底に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を掛け、重要事項の説明を行い、契約書等も交付して締結しているが、年数が経つと内容について忘れがちであり家族会等や面会時に疑問や不安、苦情等を随時お聞きするように努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、利用者に関わり、会話することで、意見や不満、希望等その思いを察するよう努力しながら、利用者の不安等が少なくなるよう取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、担当職員よりミニ便り(新聞)等と一緒にお使いにて現状報告を行っている。健康状態については、必要であれば、その都度電話などで連絡・報告し、ご意見等をいただいている。また、面会時にもケアの状況や日常生活についてお伝えし、相談等を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付として「ご意見承り箱」を設置している。また、家族会等で家族からの意見や不満・希望等をお聞きするようにしている。苦情等があれば、職員で検討すると共に、法人内の福祉サービス向上委員会に報告書を提出し、第三者委員からもご意見やアドバイスをいただき、サービス向上に取り組んでいる。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの時やその他、職員が集合した時には自由に意見等が出るよう常日頃から職員には声かけを行い、コミュニケーションを取っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の協力があり、柔軟な対応が行っていける職場であると思っている。行事や個別ケア等で話し合いの下、人員の確保や勤務の調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は法人内の他施設との関係上異動が多くあった。家族会でも意見が出たが今の状態がよいので納得はされていた。今後も職員同士の引き継ぎも職員全員でフォローしながらしっかりと行っていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での新人研修・ステップアップ研修・フォローアップ研修など段階に応じた研修には必ず参加させ、施設内や別府市グループホーム連絡協議会等での研修会にも積極的に参加を推進している。また、外部研修等に参加した場合は、カンファレンスなどを利用し、普及教育に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県グループホーム協議会や別紙グループホーム連絡協議会の実施する研修等に積極的に参加し、研修会を通じて意見交換を行ったり、施設見学等もあり、他施設の良いところはサービス向上につながるよう取り入れている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常より、職員のストレスや悩みを聴くように声かけなどにも努めているが、勤務体制も変則であり、じっくりと会話するような時間も取れず、ストレスの軽減に繋がる環境とは言えない。しかし、法人としてのレクリエーション大会や慰労会などの企画には参加し、出来るだけストレス発散につながるよう取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	半年に1回、人事考課として、自己評価・個人目標の設定及び評価等を行うシステムになっており、各自が目標を持って働けるよう取り組んでいる。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	いつでも入居者の側に寄り添うようなケアに心がけ、コミュニケーションを図りながら、常日頃からの生活状況の把握や本人の訴え、希望等を受け止める環境作りに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時はもちろんのこと、家族会や行事等にも積極的に家族の参加を働きかけ、不安や困っていること、希望等をお聴きする機会を持つよう心がけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は法人全体として見極め、対応するようしており、その方に一番必要な支援は何かをしっかりと確認して、他の施設・事業所・医療機関等も視野に入れて相談援助している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の安心が一番なので、施設見学等で安心感を与え、他の入居者との交流も図れるようケアマネージャーや家族とも相談しながら、本人の気持ちを大事にして進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に対し職員が一方的にお世話するという形ではなく、常に敬意感を持ち、その中から様々な場面で利用者から教わることも多く、そういう場面を大事にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係をしっかりと保ち、行事には出来るだけ家族にも声かけして、職員と一緒に行動していただくことで、親子・家族の関係がとぎれないよう努めている。また、家族の願いや希望を取り入れながら、日々の介護に取り組んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	入居者と家族との関係がとぎれないよう、常に家族との関係に気配りし、日常生活の状況を報告したり、行事への参加の声かけ、家族会での食事会など、より良い関係が続けていけるよう取り組んでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別ケアとして、利用者のふるさと訪問や墓参りなどを実施し、忘れかけていた馴染みの人や場所との関係が継続できるような支援に取り組んでいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	時にはいさかいがあり口論となったりすることもあるが、職員が間に入り一緒にレクリエーションを行ったり、歌を歌ったりすることでまとまり、お互いに助け合う姿も見られる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子やケアについては生活支援確認表を作成し、必要事項を記録している。その情報をカンファレンス等で検討し、介護計画の作成に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が9名の小グループであるため、出来るだけ画一的なサービスにならないよう、本人及び家族の状況や希望・思いを大切にして、可能な限り個別対応ができるよう柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の小学生との定期的な交流やボランティアとの交流、看護学校等の実習生の受入、火災など災害発生時の地域の方との協力体制など、運営推進会議等も活用して地域の社会資源の協力をいただきながら、支援に取り組んでいる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向があれば、必要に応じて、他のケアマネジャーや事業所とも連携を取り、サービス利用の為の支援をする。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が必ず出席しており、声かけにもすぐに応じて頂いている。今後も情報を共有しながら協力していきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居した時に基本としてはかかりつけ医をグループホームの協力医院に変更していただくようお願いしているが、昔からのかかりつけ医との関係を必要とされる場合は強制はせず、本人や家族の希望を大切にして、その関係が崩れないように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	法人として、高齢者に対する言葉遣いや態度など、マナー教育の徹底を行っており、日頃から利用者に対しては尊厳した言葉かけや態度で接するよう取り組んでいる。また、個人記録の取扱いにも十分に配慮し、プライバシーの保護に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃から利用者との関わりを積極的に行い、コミュニケーションを取ってその方に応じた対応に心がけ、本人の訴えや希望を受け止めるよう努力している。一人ひとりの思いを大切に、出来るだけ本人が納得できるよう支援を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な毎日の業務があるが、職員や施設の都合を優先するような事無いう、出来るだけ、個々人の生活リズム・ペースを大切に、希望に沿った生活支援を職員全員で取り組んでいる。	○ いつまでも、「その人らしく」を支援し、明るく楽しく、元気で過ごしていただくよう、これからも全職員で心がけていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしく過ごせるように、おしゃれや身だしなみには、気配りしている。更衣援助時は、本人の希望を取り入れ、自分で自由に選択していただくように配慮している。また、本人や家族の希望で近隣の理容院や美容院に行くよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜や折々の行事食を取り入れながら、目と舌で楽しく味わえる食事を提供している。利用者に合わせて、準備や片づけも手伝っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの嗜好を取り入れ、みんなが平等に楽しめるよう支援している。おやつは手作りで季節感を取り入れ、みんな楽しみにしている。たばこも喫煙所を決め楽しんでいただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべく自分で排泄が行えるよう支援しながら、清潔保持に気配りしている。個々人の排泄パターンを把握し、記録して、職員間の連携を図り、さりげない言葉かけの誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、自分の好きな時間に入浴していただいているが、職員が多忙な時間帯や人数の関係で見守りや介助が出来ない時間帯は申し訳ないがお断りをしている。(危険防止の為)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとり、その時の状況に応じ、気持ちよく過ごせるように気配りしている。特に寝つかれない利用者には、気持ちが落ち着くように、リビングに誘い、一緒に温かい飲み物を飲んで会話したりするなどの工夫しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の漬物、梅漬など、経験や知恵を存分に発揮していただくようお願いしている。また、毎日の炊事の手伝いや花の水やり、菜園での野菜や花づくりなど、それぞれの役割を支援している。	○	昔からの漬物や梅干し、らっきよなど、自慢の腕でとても喜ばれるの。今回粕漬けにも挑戦した。今後も続けて支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者全員が日常的にお金を所持することはできないが、買い物などに出かけたときには個別の財布を用意し、一人ひとりが好きな物を購入し、精算できるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日継続している。個別レクとして 利用者の希望にてドライブ、観劇、外食など行けるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日頃の雑談の中で、行きたい所や食べたい物などを伺い、行けるところであれば、早めに計画をして、下見を行い、安全を確認した上で実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話機を設置しているため、自由に家族や友人に電話を掛けられるようになっており、支援を行っている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の為の訪問時間は特に定めてはおらず、いつでも気軽に訪れていただくよう気配りしている。訪問された方を本人が思い出せない場合は職員がさりげなく思い出せるよう言葉かけ等で援助している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い身体拘束のしないケアに取り組んでいる。普段の生活の中で、職員間の連絡・調整を密にし、連携をとりながら、身体拘束防止に対する意識の確立に努めている。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、施設全体としての出入口ゲートは施錠している。鍵を掛けることの弊害は十分理解しているが、施設正面が交通量の多い道路に面しており、デイサービスご利用者の安全確保も必要な為、常時閉めているのが現実である。しかし、インターホンにより、直ぐに開けることが可能であり、職員が出迎えたり、見送るなどで対応させていただいている。	午前中3～4時間程門を開けることも試みているが、日中はデイサービスの利用者の事も考えねばならず、どうしても生命の安全確保が何より優先すべき事と考え常時の完全開放には至っていない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら所在確認や様子の把握に努め、安全に留意している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品はきちんと保管しており、必要な時や使用する時に出して、終わったら直ぐに片づけて、危険防止の取組をしている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し、カンファレンスの時に話し合い、事故防止に対する共有認識を図っている。火災に関しては、防災訓練を行い、カンファレンスの時にシミュレーションを行い、未然に防ぐ取組を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応マニュアルや応急処置マニュアルは整備しているが、実際の実地訓練は出来ていないため、現実に遭遇したときに対応出来るかどうか不安である。一応、夜間帯の緊急時の対応として緊急連絡網は作成し、緊急時に備えている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の防災訓練を行っている。この防災訓練には自治会の方の参加をお願いし、実施している。		
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の面会時に、その時その時の生活状況や身体・精神状況を報告し、または相談を行い、共有の認識の下で対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握しており、少しでも変化が見られたら、バイタルチェックを行い、訪問看護に相談し、必要であれば協力医、かかりつけ医に連絡を取り、相談の上対応している。また、家族にも連絡し、家族の意向等も確認して支援している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が必ず責任を持って、服薬確認し、症状の変化の確認にも心がけている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や適度な運動を働きかけ、自然排便を促すよう職員全員で取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、見守ったり、介助を行っている。また、義歯の方には、毎日の義歯の洗浄を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）</p>	○	<p>毎年、インフルエンザの予防接種を利用者、職員全員行っている。また、外からの来園者には施設入口にて手指消毒を行っていただき、感染予防に対する注意書き等も掲示して注意を呼びかけている。インフルエンザの時期には加湿器を設置して予防に努めている。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		<p>パブリックスペースとして食堂兼リビングを自由に利用できるようにしており、ゲームをしたり工作や一緒に歌を唄ったり、利用者同士の交流が図れるような空間づくりを行っている。また、畳敷きの掘ごたつも用意されており、寒くなればこたつでの団らんが出来るようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/> ②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/> ③たまに
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="checkbox"/> ①大いに増えている
		<input type="checkbox"/> ②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/> ③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

散歩、体操は「継続は力なり」で、食事をおいしく食べることが出来、排便コントロール出来ていると思います。近隣の老人会と交流することで施設のアピールが出来、利用者さんや老人会の方に楽しんでいただきました。今後も是非交流会を行っていきたくと思っています。自治会の行事にも参加する事を利用者さんが楽しみにしていますし、関わりも広がっています。今後も健康面や安全面を考慮しながら引き続き行っていきたくと思っています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものであるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13

合計 100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム新別府一燈園
(ユニット名)	3階 なごみ
所在地 (県・市町村名)	別府市大字鶴見字新別府3051番地3
記入者名 (管理者)	浜崎 一枝
記入日	平成 20年 10月 27日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
<input type="checkbox"/>	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	新規採用職員や異動にて着任した職員が理念を理解し、日々の実践で活かせるようミーティングやケア会議等での確認を今後も続けていく。
<input type="checkbox"/>	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
<input type="checkbox"/>	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	地域の老人会が行うカラオケ倶楽部に数名参加しているが、今後もっと交流を深め、他の行事にも参加をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>運営推進会議などで自治会や老人会の情報を頂き、勉強会のある日に認知症の理解について話をさせていただく予定である。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を十分に時間を掛けて説明を行い、家族の疑問等にも丁寧に対応している。契約締結後も、十分な理解が得られるよう心がけている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からの苦情については、苦情受付簿に記録し、全職員に回覧。全員で改善に向けて取り組んでいる。また、アンケートを実施し、意見や希望を聞いてケアプランに取り入れている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、新聞を発行し、ユニットの取り組みを報告。また、金銭出納帳を毎月コピーし、利用料の請求・領収書等と一緒に郵送し、報告している。さらに、担当スタッフも家族に電話連絡したり、面会時に日常生活の様子などを報告している。また希望するご家族については日々のケア記録を印刷して、内容を見ていただいたりしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やアンケートを実施し、意見や希望等をいただいている。特に苦情に関しては、法人の苦情相談窓口へ提出し、第三者員にも報告し、意見を頂き、施設運営に反映させている。また、面会時や行事参加の折りにもご意見が頂けるよう積極的に声かけを行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の人事考課制度を活用し、職場で起こっている諸問題に耳を傾け、対応するよう心がけている。またカンファレンスやその他職員が集めた際は自由に意見が出るよう声かけを行い、また日常のコミュニケーションを大切にしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の協力があり、柔軟な対応が行っていただける職場であると思っている。行事や個別ケア等で話し合いの下、人員の確保や勤務の調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人運営に於いて、定期的異動は仕方ない面もあるが、利用者や家族に不安を与えないよう説明を十分に行い、しっかりと引き継ぎを行っている。	○ 馴染みの職員の退職や異動により、やはり利用者が不安になることがあったため、残った職員が心のケアをしっかり行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の経営企画室が担当して新人研修・ステップアップ研修・フォローアップ研修など計画的に実施し、受講対象者が交替で研修を受講している。また、外部の研修にも積極的に参加し、ケース会議等で研修報告をして、レベルアップを図っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市の8つのグループホームで構成する別府市グループホーム連絡協議会に加入しており、定期的な会合や協議会が主催する研修会や事例検討会に出るだけ多くの職員が参加し交流すると共に、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人として慰労会を兼ねたお花見会や恒例の忘年会などを行い、ストレス解消に努めている。また職員の疲労やストレスの要因について気を配ったり職員同士の人間関係を把握したりしている。	○ 若い新人職員や異動間もない職員については管理者やサプリーダーによる悩み相談を行い、ストレス解消の機会を常に用意していく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課として、年2回、個別の職能評価や次期の目標設定を行い、職員が向上心を持って働けるように取り組んでいる。また、資格取得に向け、法人独自で勉強会を実施し、資格取得後はその資格を活かした業務配置等を行い、働きやすい環境の構築に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでの相談は、担当のケアマネージャーが本人とゆっくり話をお聴きし、今のおかれている状況を理解するように努め、担当ケアマネージャーより入所についての相談や必要とあれば施設見学などで連携を取っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当のケアマネージャーが家族とも困っていること等をしっかり傾聴し、信頼関係を作りながら、家族の不安や介護負担の軽減に向けて支援に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じたサービス機関の紹介や、地域包括支援センターへの紹介等を行っている。緊急性がある場合は、関係機関と連携・調整し、柔軟な対応を行うよう努め、生命の安全に留意している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族に施設見学をしていただき、入居が決まれば、可能な限り職員がご自宅を訪問して、生活の状況を確認し、できるだけ自宅生活の延長の雰囲気となるよう努めている。また、入居後は家族の面会をお願いしたり、個別の対応を行い、不安の解消に努めている。	○	入居前に施設に慣れるよう、遊びに来ていただいたり、他の入居者と一緒に食事を食べて頂くなど、家族とも協力し、馴染みの関係を作って行きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が自分の力を発揮できる場面作り(役割)を行い、自己満足(喜び)へとつなげている。感謝することで、他人に対するいたり喜びの感情が芽生え、お互いに助け合っているとの思いが強くなっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	半年に1回、家族を交えた担当者会議を行い、家族の意向をケアプランに反映している。家族の役割もプランに入れ、共に利用者の生活を支えていくように努めると共に、行事や家族会などにも積極的に家族に働きかけ、一緒に支え合う雰囲気作りを行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事や食事会に家族の参加をお願いし、本人と家族がより良い関係が築かれるような場面作りに努めている。親族が後見人の方もおり、ミニ新聞や写真等をお送りし、近況を報告することで、良好な関係の継続がなされるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の一環として、利用者のふるさと訪問や友人・親族の自宅を訪問するなど、継続的な交流が出来るよう働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が調整役となって、利用者同士の関係が上手く行くように支援し、音楽や生活の中の家事を全員で取り組むなど、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>入院などにより、やむを得ず退去される方は居宅サービスの相談員（ケアマネジャー）に引き継ぎ、継続的なフォローをしている。他の施設に移られた方には、他の利用者と一緒に面会に訪問したり、交流が続けられるように支援している。</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>担当職員が本人の思いや希望を把握し、ケアプランに取り入れている。希望や意向を明確に出来ない方には、表情などから真意を推し量ったり、家族からの助言も交えて把握できるよう取り組んでいく。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>担当ケアマネジャーからの情報収集や入居前の自宅訪問、出来ない場合は家族や後見人の方に来園していただくなどして、出来るだけ詳細に把握できるよう努めている。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>家族や本人からうかがったアセスメントを元に、アセスメントシートを活用して、職員全員で本人の全体像を把握するように努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の思いや意向をしっかりアセスメントし、カンファレンスで職員が意見を出し合って、介護計画書を作成している。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画の遂行状況を毎月モニタリングし、プランの見直しを行っている。期間中に状態が変化したり、問題が発生したときは、臨時のカンファレンスや家族にお願いし、担当者会議を開いて検討している。変更したプランは随時計画書の変更を行っている。変更したプランは随時計画書の変更を行い、家族に確認していただいている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>重度化対応、終末期ケア対応指針を作成したので、ご家族や本人の意向を確認しながら、今後の準備を行っていく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	施設全体で職員のマナー委員会を設け、利用者に対する言葉遣いや態度の指導・教育、啓発を行っている。職員間も同様にマナーに注意しあい、言葉遣いやプライバシーの保護、また、個人情報の取り扱いに気配りしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた声かけを行ったり、複数の選択肢を提示し、本人の意向を確認しながら支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な業務流れはあるが、入居者の体調やニーズに合わせ、生活の支援を行っている。夜の消灯時間など、生活習慣に合わせた柔軟な対応を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは本人の意向で決めており、職員は洋服を出して、好みの服を選んでいただくよう援助している。化粧や整容についても、物品の準備や声かけをするが行うのは本人に任せている。自分で出来ない方には介助している。パーマやヘアカラーなども本人の希望で支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事に利用者が関わられるよう その方にあった役割を見つけている。調理や盛りつけ、後片付け、また食事も職員と同じテーブルで、一緒のものを食べ食事全体が和やかに楽しくなるよう配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物に出た際に利用者の嗜好品を購入してもらい、誤嚥の心配のない利用者には居室で楽しんでいただいている。お酒も本人の希望で夕食時にしたりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は出来るだけ布パンツにまたは尿取りパットにて対応し、誘導を行い、夜間は安眠できるように紙パンツにパットを併用するようにしている。個々の尿意や意志を大切に排泄パターンを職員間で把握し誘導や声かけを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々のペースや時間帯で入浴を楽しんでいただいている。安全面や清潔保持に配慮しながら、出来ない部分については一緒に行い支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別の生活リズムに合わせて就寝しており、テレビや本を読んだり、趣味活動をしながら、ゆっくりと過ごせるように支援している。休息も同様で、体調やその日の行動に合わせ、居室でゆっくり休んでいただくようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味活動への取組や音楽療法を毎日行い、入居者の皆さんが知っている歌を中心に楽しんでいただいている。家事も個々人の能力に合わせてお願いしており、達成感や満足感が得られるよう、感謝の言葉を伝えている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金(お小遣い)を個人管理してもらい、買い物に同行した時に、小遣いの中から嗜好品を購入し、自分で精算する場面を作っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や食材の買い物、ドライブ等の機会を作り、戸外に出て気分転換やストレスの解消に努めている。また、個人のニーズで外食や演劇鑑賞等の支援も行い、楽しんでいただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常の会話の中から、今行きたい場所、会いたいご家族、旧友等を把握し、利用者、ご家族と相談し、希望の添えるようまた嬉しそうな笑顔が見られるよう支援実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置しており、いつでも家族や友人と電話でゆっくり話せるように支援している。また、友人からの手紙には、職員が声かけを行い、電話を掛けるなどして、関係が途絶えないよう配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者がゆっくりと話ができるように居室に湯茶を準備します。個々それぞれ好みのソファやイスを居室に用意しているため、それぞれの空間でゆっくり過ごしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束とその弊害について認識し、向精神薬や眠剤からの離脱に向けて取り組んで来た。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の3階にあり、利用者が外出しそうな様子を見せたら、職員が一緒について行ったり、1階にデイサービスがあるので、デイの職員とも連携し、安全に配慮しているが、建物全体としての玄関ゲートは真正面が交通量の多い道路に面している為、危険防止の目的で通常はゲートを閉めている。	○	今回、午前中の3～4時間、門の施錠を開けて対応してみましたが、デイサービスのこともあり日中はどうしても生命の安全確保が何より優先すべき事と考え、開放することは出来なかった。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は食事作りをしながら、リビング担当の職員とフロア担当の職員が利用者の様子を観察しており、夜間はエレベーターは止め、階段横の事務室(職員ルーム)で2時間毎に巡視し、物音がすると訪室し、安全確認を行っている。また、22時以降は階段使用時に警報が鳴るようセットしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日中については、食堂やフロア担当職員が利用者の状況に合わせ管理し、夜間は事務室内に引き上げたり、洗濯用品については、乾燥室内に仕舞い、鍵を掛けて管理している。ハイターや消毒液などは棚に仕舞い、利用者の目に触れない所で日中も保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットを記録し、ケース会議で再発防止の話し合いを行っている。事故発生時には速やかに事故報告書を作成し、今後の予防対策を検討すると共に、家族や運営者に報告をしている。	○	事項防止の予測をし、安全面、リスク改善に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	定期的な実践訓練を行い、対処法を全職員で共通理解し、習得できるよう取り組んでいく。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量のチェックを行い、記録し、大まかな摂取量を把握している。嗜好調査を行い、食べられない物は別メニューで出したり、利用者の嚥下や咀嚼力に応じて、粥やきざみにして出している。また、月に1回、法人内の管理栄養士にメニュー表を見てもらい、アドバイスをもらっている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防のマニュアルを作り、全職員で予防対策に努めている。利用者や家族の同意を得て職員も含め毎年インフルエンザの予防接種を受け、また、加湿器の設置や訪問者には手指消毒をしていただくよう消毒器の設置と、利用者にも手洗いの声かけや食事前にはおしぼりによる手拭きと手指消毒を行っている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは毎晩漂白洗浄し、冷蔵庫内も定期的に掃除し、消毒液で拭いている。食材の残りは鮮度を確認し、冷凍したり、日付を書いて早く使用するようにしている。毎日買い物に出かけるので、買いだめせず、新鮮な食材を使って調理するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階がデイサービスとなっており、玄関は共用となっている。施設全体の出入口ゲートは常時施錠しているが、インターフォンでグループホームからでもいつでも開閉ができるようにしている。広く明るい玄関でデイ利用者の作品等を展示したり、庭には芝生の緑が鮮やかで、清涼感漂う造りになっている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに入ると調理を作る職員の姿や香り、音など生活感を感じる造りになっている。また、リビングの一部は畳敷きになっており、堀ごたつが設置され、冬場にはコタツで囲らんする姿も見られる。廊下やリビングの壁かざりは季節毎に利用者と一緒に造り、季節感を出す演出をしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下に椅子やソファを置き、仲の良い利用者がくつろげるスペースを作り、観葉植物等を置いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居室でゆっくりと過ごせるように、自宅で使い慣れたソファやテーブル、家具類を自由に入れていただき、家族の写真や思い出の品などを飾り、個々の個性に合わせた部屋作りを家族と一緒にやっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温調整はこまめに、利用者の様子を見ながら適宜行っている。ユニットが3階にあるため、風の通りが良く、出来るだけフローアや居室の窓を開け、自然の風を取り入れている。トイレには換気扇や消臭剤を使い、悪臭がでない工夫をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、ベットの位置や家具の配置を見直し、安全への配慮を行っている。毎日着替える下着などは取りやすい段に変更したり、タンスに名札を貼り、入っている物が判るように提示するなどの工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者が混乱や失敗が生じたとき、職員間で話し合い、解決策を出し合って対応している。何度もフィードバックしながら、本人の力が出せるよう追求している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者と一緒に菜園で畑仕事を行ったり、3階なので、ベランダに出ると見晴らしが良く、安全に注意しながら、椅子を出して外気浴を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

①全職員で利用者の生活リハビリを随時見直し、役割を見つけることで生き甲斐や達成感を味わい、生活への張りを感じていただけるよう支援している。②学習療法を継続している。前頭葉を活発化することで、コミュニケーション能力やエピソード記憶が改善している。③音楽療法を毎日行っている。懐メロや童謡を歌うことで昔のことを思い出し、団らんのコミュニケーションが広がったり、声を出す機会を増やすことも出来、お茶を飲みお菓子をつまみながらの楽しい日課になっている。④学習療法士1級資格者3名あり。認知症の改善を目指し継続している。